



建学の精神  
生徒の信条  
教育目標

あ さ い ち

あいさつ

さわやか

いつでも

ちいきと



旭一中だより

みんな仲よく 面倒よく  
正しくあれ 強くあれ 望み高くあれ  
持ち味を生かし 協働しながら  
自らを成長させる生徒の育成

令和3年度  
第13号  
令和3年10月15日  
旭市立第一中学校

## 自分を生かす進路選択

オリンピックの年に時々思うのは、日本と欧米の「学びの機会」の違いです。欧米のメダリスト達へのインタビューでは「大学に戻って勉強し、弁護士を目指します。」「進学して医師になりたいです。」というような抱負を語る選手をよく目にします。スポーツで世界の頂点を極めた人たちが、大学で勉強し直して、異なるキャリアに挑戦する。「学びの機会」だけの話ではないのだろうと思いますが、ワクワクする夢のある話に感じます。



2年生 キャリア教育

オンラインで夢の実現や仕事をするこの意味などについて学ぶ

一方、現在、将棋界で大活躍の藤井聡太さん(19)は、高校の卒業間近の1月末日に退学届を出しました。届けを提出した時点で藤井さんは「棋聖」と「王位」という2つのタイトルを保持し「二冠」と呼ばれていました。日々の対局が多く、高校への出席日数がギリギリの状況ではあったようですが、「高校卒業」より将棋の研究を優先させたということなのでしょう。その後、藤井さんは「叡王」というタイトルを奪取して「三冠」となりました。19歳1ヵ月での三冠は、羽生善治さんの22歳3ヵ月を大幅に更新しての最年少記録です。



3年生 実力テスト

さて、中学校卒業後の進路をどうするかは、中学生にとっての大きな課題です。現状では高校等の上級学校に進学を希望する生徒がほとんどです。しかし、進学すること自体が目的ではないと思います。将来の生き方や夢の達成に向けたイメージを持った上で、自分の意思で進路決定をしてほしいと願っています。

ご家庭でお子様の適性や興味関心に応じた、これからの生き方について、親子や家族で語り合う時間を折りに触れて持っていただくようお願いいたします。

それが、学びのモチベーションにつながります。